

オラーン・ボラク 3 号墓から出土した大型植物遺体

赤司 千恵
(帝京大学文化財研究所)

I . 試料について

オラーン・ボラク 3 号墓からは、乾燥植物遺体が木棺床面に大量に堆積した状態で出土した [本報告書 :32, 図 47]。これらの植物遺体の一部 (0.323g) をサンプルとして採取し、顕微鏡にてソーティング、観察を行った。

表 1 オラーン・ボラク 3 号墓出土の大型植物遺体

	点数	重量 (g)
キビ属, 穎	61	0.016
アカザ科, 種子	1	-

Ⅱ . 分析結果

植物遺体は主にキビ亜科の穎で、67 点のキビ属の内穎／外穎が見つかった (表 1)。ほとんどが壊れて破片となっていたが、6 点については花序全体の形を保っていた。おそらく元々は有ふ果の状態で入れられたものが、胚乳は失われ外側の穎のみが乾燥状態で遺存したと思われる (図 1)。

キビ属以外に、1 点のアカザ科種子が確認された。

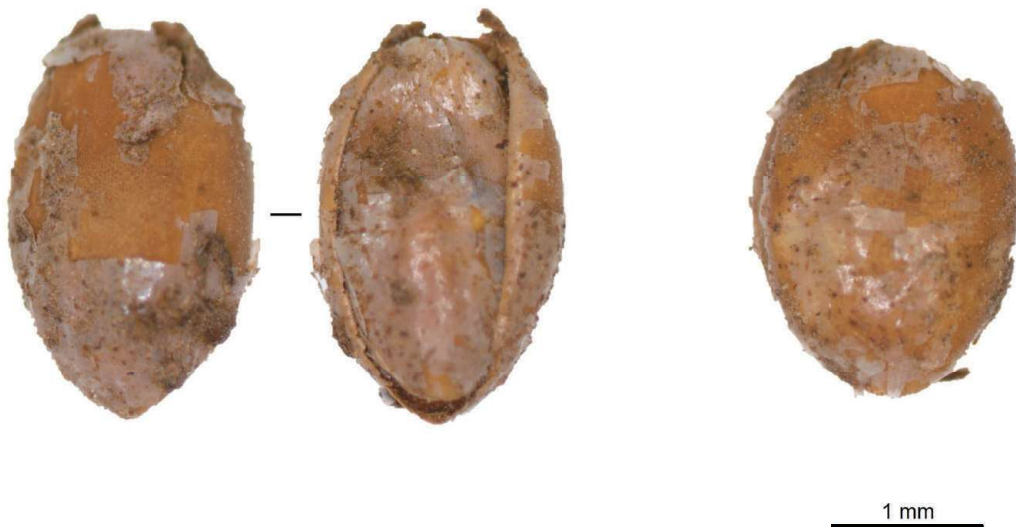


図 1 キビ属 . 穎

サイズ : (左) 2.89 × 1.88 mm, (右) 2.61 × 1.99 mm